

# 構造の違いによって費用はどう変わる？

メンテナンス費用の内訳は税金を除けば部品代と工賃。部品代については前章までで細かく比較してきたが、ここでは工賃が高い部分に注目。整備には素人が思っている以上に手間がかかる部分があり、それによって費用も変わってくるのである。

●文 = GERMAN CARS ●撮影 = G.C.E ●協力 = セントラルオート / ボールポジション



リアのクランクシールからのオイル漏れを起こしている場合、ミッションを降ろさなければシールの交換ができない。



工賃がかかる作業は、付随する作業も同時に行なっておくとい。写真は AT のカバー部分でオイル漏れしやすい。



角目世代のメルセデスでは劣化が目立ってきているサブフレームマウント。SSTがない場合はサス回りをバラす必要がある。



ハブベアリングを交換するための SST。これを使えば効率的かつ確実な交換が可能になる。

## 作業に手間がかかるポイントこそ関連部分のメンテを同時に行なう

**作**業に手間がかかるということとはそれだけ工賃にも影響してくる。そこでここでは、どんな整備に時間がかかるのかを探っていくたいと思う。話を伺ったのは、あらゆる世代のメルセデス・ベンツにおいて数多くの実績を持つセントラル

オートの児玉氏だ。「もっとも手間がかかるのはエアコンですね。ダッシュボードをバラす必要があるのでエバポレーターを交換するにも時間がかかります。費用も高くなりますから、ヒーターコアや車種によってはエアコンのフラッ

## Mercedes-Benz メルセデス・ベンツ



(上) 工賃がかかる部分として代表的なのはエアコン。ダッシュを分解しての作業になるので、部品を交換するだけでも大変。(左) メルセデスに対する深い知識と高い技術を持つセントラルオート。代表の児玉氏を始め、熟練のスタッフがメルセデスのトラブルを的確に解決してくれる。●問い合わせ：☎ 048-930-6800

プなど、バラしたついでに交換できるものについては同時に換えておくのがベスト。いつか交換しなければならぬ消耗品については、このタイミングで交換してしまったほうがユーザーさんにとってもメリットは大きいです。

リアのクランクシールからオイル漏れを起こすことが多いのですが、じつはこのシールを交換するにはミッションを降ろさなければなりません。にじみ程度なら問題ないですが、ひどくなると車検をクリアできませんから、交換するケースは比較的多いですよ。ただ、ATに備わる電子カプラーを交換しておくなど同時に換えられるものは点検しておくべき。ATFも抜きますから、それも交換する必要があります。つまり、作業に付随する項目はなるべく同じタイミングで交換するのが、工賃の節約にも繋がるし、クルマにとっても良いコンディションをキープできるということですよ。

足回り関係ではリアのハブ。ガタが出たり異音が発生するのが定番のパターンなんです。これを交換するには5本のアームで構成されているマルチリンクサスをバラす必要があります。ベアリングを抜き取った

り、新品を圧入する時は SST (スペシャル・サービス・ツール) を使って作業するんですが、これがけっこう高価なんです。でもあるとないのでは作業のクオリティが大きく異なりますし、作業にかかる時間も変わってきます。

このように、そもそもの作業に手間がかかる部分もあれば、ウオーターポンプの交換のようにエンジンによって作業の手間が変わってくるケースもある。児玉氏が言うように、工賃がかかる部分に関してはそれに付随する作業も同時にメンテナンスしておくべきだ。また、SST を持っている工場とそれがない工場では作業時間が大きく変わるケースもある。確実に作業するためのスペシャルツールでもあるので、このあたりも工賃に影響してくる部分だと言えるだろう。

### 手間がかかるのはどんな作業？

- 1 エアコン修理
- 2 リアのクランクシール交換
- 3 リアハブベアリングの交換



**工** アコンの修理は素人が思っている以上に大変な作業。例えばエバポレーターはダッシュボードの奥にセットされているので、ダッシュを分解する必要があるのだ。リアのクランクシールからのオイル漏れはメルセデスでは定番のポイント。シール自体は 4000 円ほどののだが、交換するにはミッションを降ろす必要がある。そのため、AT をオーバーホールする時に交換するケースも多い。リアのハブベアリング交換もサス回りをバラす必要がある。